

2011年11月30日

あっきー

最終報告

11月1日初めて福島県会津若松市に着いてまずびっくりした事は、午前5時20分ただ辺り一面霧で真っ白でした何も見えません。ここが街の中なのか山の中なのか、さっぱり判りません。

約束の時間9時30分最初の研修です。地酒ツアーに参加です。バスに揺られ、いきなりお酒がでてきてびっくりです。「実は、お酒は飲まないのですけど。」とは、言えず次から次へと出てくるお酒、このツアーに参加してもいいのだろうか?と思いました。勿論モニターツアー参加の方々は、お酒好きだろうし、スタッフの方もお酒好きなのも分かりました。他のインターン生もお酒に強い方が多く、私は、見ているだけでした。日本酒は、豊富な水とお米が採れ、冬に寒い地域で盛んに造られるので、お米の産地で有名なお酒が、生まれます。会津地方もそうなのかなと、思いました。それにしてもお酒に強い方は、どうしてなのかと思っておりましたら、その証拠を見つけました。地元の普通のスーパーであるリオンドールやヨークベニマルのお酒売り場が、東京の普通のスーパーより2倍3倍と広く、とにかくお酒の種類も多く福島県民の方なのか、会津若松の方だけなのかは、解かりませんが、お酒好きな土地柄だと分かりました。



全体研修

11月1日と11月2日と11月7日は、素材広場での全体研修が、ありました。

渡部柿園



11月3日と11月4日は、柿農園さんでの実習です。柿農園さんでは柿の収穫と箱詰め作業でした。柿といえば「甘い柿なの?」と思っておりましたが、渋柿とお聞きして、「東北の渋柿といえば、よくニュースで見るのは、干し柿かな。」と、そのイメージがありました。が、種なし柿の一種だとわかり、貴重な体験が

出来るかなと思いました。ところが、柿農家さんにとっては、収穫期の忙しい時期で、とにかく沢山の方々が力を合わせて、全国から来る注文に対応していました。また、直接お買い求めに来られるお客様は、「この柿じゃないと、他所の柿は、家族が食べなくてね。」と、おっしゃるお客様や「毎年、買っているので、今年も買いに来たのよ。」と、言ってくださるお客様がおられました。福島県の農産物は、風評被害であまり売れないといいますが、理解ある消費者の方々も沢山おります。また、フルーツで食べるだけでなく農家のお母さんたちは、傷ついた柿は、サラダに入れてマヨネーズで和えたり、なますに入れたり、青い柿は塩漬けのお漬物にして工夫して無駄なく食べておりました。貴重な体験とお話になりました。

お茶会のお手伝い

11月5日は、お茶会のお手伝いです。他のインターン生2人と松長近隣公園応急仮設住宅に行きました。10時からのお茶会でしたが、特設会場には、大熊町ふるさとまつりと言うお祭りがあり、お茶会も大熊町の元の住民の方々におにぎりやお菓子をお出しする会になりました。他のインターン生2人は、話が上手くすぐに大熊町の方たちと話が弾み聞き取りが進んでいました。私は、口下手なので、なかなか加われず、どうしましょうか？とっておりましたら、次々とお客さんが入れ替わり立ち替わり配膳のすみれの会のお母さん方も大熊町の方なので、知り合いの方がお見えに成ると、ご挨拶や近況のお話もしていらして、とても忙しそうでした。インターン生も豚汁やお菓子を頂いたので、何かお礼をしなければと思い、配膳のお手伝いに加わりました。お手伝いのあい間に少しお話が聞けました。まず畜産農家の方のお話です。雑誌の中、牛の写真を見ながら「避難する時、牛たちが、可哀相なので放して来た。放した牛たちは、みんな近くに寄り添っていたのよ。」と教えてくれました。また別の方は、「冬、雪が降ると外に行かなくなるので、屋内で出来る物があればいいんだけど、卓球がしたい人がいるのよ。」と教えてくれました。そして、別のインターン生の上杉さんお聞きしたお話が、今回の私が、関わる事になるお話です。「大熊町の情報がほしくて、問い合わせても・ホームページで、確認してください。・と言われてしまいコンピューターが、使えない自分には、難しい。集会所でコンピューター教室を開いたり、パソコンを置いたりしてほしい。」とっておりました。

地域復興

11月7日よりプロジェクトが、始まりました。まず、質問表とメリットとデメリットと大熊町の事について知らないので会津若松市の図書館で大熊町について調べないといけない。そして直接行けば大熊町の役場にも行かないと、思いました。さらに代表から、本当にパソコンのニーズがあるのかりサーチ追加です。1-質問 大熊町は何でホームページに拘るのか？ 会津若松市はサポートをしてくれないのか？ 2-メリット 大熊町の方々が役場とつながる。 会津大学の学生さんにとっては、簡単なパソコン作りの役に

立てれば。(携帯電話の簡単携帯みたいのです。) 3-デメリット 大熊町の人には本当に喜んでくれるのか。 会津大学側は、めんどろではないのか。 1人よがりに、なっていないのか? いずれさんたちの引き継いだのを潰すかもしれない。 パソコンが解かる人にとって、パソコンが解からない人の気持ちが上手く伝わるのだろうか。 4-その他 会津大学の学生さんに気長に教えて貰えるのだろうか? それは基礎の基礎であっても1回2回では、絶対に無理です。 午後リサーチです。 東部公園の仮設住宅の方に聞き込みです。 副会長の方にお会いして、パソコンのニーズはあるのかお聞きした所「大熊町のホームページは、会長がパソコンを持っているので見られるから、」と。「もしもパソコン教室を開くとしてもパソコンを持って無い人にパソコンの貸し出しは、あるのか?」と。質問がありました。 とにかく他の住人に聞いてくれたそうです。 数日後、電話で回答があり初級のパソコン教室でなくてももう少しレベルの上教室をしてほしいとの事でした。 2つ目の仮設住宅の方にもアポを取ってパソコンのニーズをお聞きしたかったのですが、大熊町ふるさとまつりで地域のボランティア団体の代表の方が相当お疲れの様子で聞けませんでした。 出直しです。 リサーチを後にして会津若松市市役所に行き何か大熊町の情報は、ないのですか? と伺うと特別に大熊町の情報は無いので、大熊町の臨時の役場の場所を教えてくださいました。 大熊町の若松出張所まで行き広報みたいのは探したが無くて、あるのは福島県や国のお知らせの紙媒体だけでした。 唯一あったのは、保護されたペットの情報がありました。 ペットを探している方のお話が聞けました。 後日大熊町役場を訪れる前にアポとりです。 その時大熊町役場の方から「ホームページを見られない方のためにディスプレイ型の電子回覧板を1週間に1回お貸しします。 その問いあわせは企画調整課ですので、そことお繋ぎします。」と仰ってください、実際に企画調整課に行きました。 そして質問をしました。 Q-1 ディスプレイ型の電子回覧板は、大熊町民が申し込みをしないといけないのか? A-代理人でも申し込みは、できます。 Q-2 1週間に1回貸すとの事でしたがそれは、週間に1回大熊町役場に取りに来ないといけないのか? A-手続きの書類と身分証明の写しを役場に提出すれば1回借りられそのまま来年の8月31日まで使えるようです。 もし、仮設住宅が遠い所にあるなら郵送も可能と。 Q-3 大熊町では、初心者向けのパソコン教室や各仮設住宅の集会所にパソコンを置くなどの独自の取り組みは、あるのか? A-今すぐも1、2ヶ月後もその様な企画は、ありません。 との回答をいただきました。



会津若松市の図書館

11月8日は午後から会津若松市の図書館へいきました。なぜかと言えば私が大熊町について、何も知らないからです。始めにあの場所に福島第一原子力発電所ができたのか調べると軍用練習飛行場であった事、第2次世界大戦後、放置されて広大な原野になっていた事、昭和39年に東京電力が買収した事が分かりました。次に歴史的に縄文文化・弥生文化の遺跡が点在しており、昔から人びとが、暮らしていた場所だと分かりました。

その後

地域復興その後事務所での検討の結果で、ディスプレイ型の電子回覧板ではなく初心者向けのパソコン教室の方向で行く事になりました。その為に、パソコンを解かりやすくするために、操作方法を分かり易く図入りの物を模造紙に書き集会所に貼ります。パソコンのキーボードにカラーシールを貼ります。そして、大熊町の方々にパソコンを身近に感じられる様にしないと、と自分自身がパソコンを余り使わないのでパソコンの使い方も知らず、毎日悪戦苦闘しています。それが素材広場のスタッフの方々からするとパソコンの初心者の気持ちに近いのではないのかとなりました。

11月12日盲導犬・点字ふれあい体験

仙台訓練センターから盲導犬が来てきました。他にも視覚に障がい者がある方々の役立つ物がありました。音声パソコンです。立ち上げの所から音声で読みあげてくれます。映し出した文字も大きくなって配慮してあるものでした。



11月13日カラオケバスのお手伝い

相馬市でのカラオケのお手伝いです。相馬市は、福島県の沿岸部で津波が押し寄せて来て

大切な人や物をなくしたお話を聞きました。また風邪が、流行り始めてカラオケに参加出来ない方が、いらっしゃると言っておりました同行のスタッフの方々が最初カラオケをしたがらない高齢者の皆さんを上手に盛り上げてどんどんカラオケのリクエストが増えて行き最後は、皆さん笑顔になっておりました

後の時間は、中間報告に費やしました。

中間報告後は、パソコン教室のマニュアル作りとパソコンの初心者の教室のお試しをしないといけません。その為に後半は、頑張ります。

11月15日

午後から松長近隣公園応急仮設に行きました。午後2時からのお茶会に参加するためです。しかし、お茶会は午前中に終わっていました。そこで、直接歩いている方にお話を聞きました。大熊町の情報はいろいろ入って来るし、パソコンは難しそうで、と言うお話でした。

11月16日

中間報告の直しと企画書づくり



11月17日

企画書づくりに費やしました。

午後12時30分から3時まで大豆の収穫のお手伝いでした。この大豆は、南相馬市の方が、大切に育てた有機栽培の大豆でしたが、震災と原発の立ち入り禁止区域でなかなか取り出せない大豆で、やっとの事会津若松市に運んで減反の農地に、栽培を再開出来たとの事でした。ただ蒔く時期が遅くて大豆の粒は小さい物となりました。との事でした。そこで出会った方のお話です。その方の家は、津波に合わなかったけど津波に流された人達が家の近くに来て、びしょびしょ濡れで3月11日は寒くて家にあった服を全部着替えに出したとの事でした。その方は、借り上げ住宅にいて丁度選挙があり、元の自治体の選管に問い合わせると「会津若松市の会津稽古堂で期日前投票をしてください。」と言われたが、会津若松市の外れに住んでいるのに中心部の地図がないので行くのに

苦労したとの事でした。

11月18日 マニュアルづくり

11月19日

午前7時から東部公園での落ち葉清掃に参加しました。お話も聞きました。いつもは、落ち葉でたい肥を作り町のあちこちにある花壇やプランターの植物のためにするらしく、しかし原発の影響で放射線量が少し高いので、落ち葉を全部ごみ袋に入れて焼却処分するそうです。この地区の自治会が中心となって清掃活動を神社や大きな道路も清掃するとの事です。延べ40、50人が若い方からご年配の方まで例え短い時間でも参加する会津若松市市民の皆さんが沢山観光に来られる観光客の皆さんに綺麗な会津若松そして福島県に対して良い印象にしたいのが伝わりました。午後にイベントがありますとの情報が聞けました東京の中野区の会場とリンクして被災地と繋がるイベントだそうで夜に沢山のキャンドルで公園の辺りを照らすらしいです。そのお手伝いをワクワクして待ちましたが雨で中止になったのかと思いましたが、後日偶然テレビのニュースの映像で東京の中野区の会場の沢山のキャンドルが流れていました。リアルタイムで見たかったです。残念です。

11月20日と11月22日の午後と11月23日

柿農家さんでのお手伝いでした。柿は今年豊作で市場では、値崩れを起こしていて安くなっているとの事でした。柿農家さんのご主人はおっしゃっておいりました。さらに今年は、原発の影響で売上が好ましくないとの事でした。そして、寒くなると柿は売れなくなって他の果物りんごやみかんに消費が移ります。JAの直売所でも売り場面積が冬の果物が占める割合が増えてきている事でした。冬の柿農家は柿の木の剪定をしているとの事でした。雪が降る前にワラを敷く作業もあり忙しいです。

11月21日

マニュアルの再提出と大熊町のホームページからの情報収集でした。

11月22日午前

会津若松市の東公民館での調査です。無料でパソコンが使えてマニュアルまで見られるので行きました。写真付きのマニュアルでしたが、分かりにくいのです。インターネットに入ってからマニュアルがないので、なかなか進みませんでした。もうひとつは、寺やんさんの最終報告でした。質問にも緊張しました。内容は素晴らしかったです。

11月24日

最終報告作りでした。午後は郡山でのセミナーでした。セミナーの内容は「食の安全と地域のこれから」で20人ぐらいの方が集まっておいりました。らでいしゅぼ一やの代表取締役社長の緒方大助氏でした。らでいしゅぼ一やとは、無農薬でなくても独自の厳しい安全基準をクリアした食品を宅配でお届けする会社です。事業の特徴として、地域だけで食べられていた野菜の発掘し全国の農家に栽培してもらい全国区になるまで良さを伝える事で

した。例として「だだちゃ豆」と言う山形の枝豆を有名にしたそうです。そして今回の震災で放射線に対しては、不可避であった事の講義でした。お客さまの流れとして3月の震災の影響で普通のお店での買占めがあり、品不足で注文が殺到したが、4月、5月と原発によりお客さまが減ってしまい、いくら安全基準をクリアしていても消費者が戻らず、そんな時生産者側から「食べたら、危ない物は売りたいくないので、放射能検査をやってほしい。」と言われ原点回帰にする事に、まず作物の作付け前に土壌と肥料の検査と収穫前に作物の表面と内部の検査を外部で行いこれを公表しました。その結果6月からお客さまが増えました。さらに、ニーズに応じて野菜の詰め合わせパック、産地を



限定した物を2つ作りました。1つは西日本・北海道の産地パックこれは放射能検査をしません。もうひとつは北関東・東北の産地の応援パックを作り、放射能検査をした物で消費者自身が選べる形にして両方がないといけないとおっしゃってました。さらに被災者で離農した方を対象にファームエイドプロジェクトをしています、これは被災地を離れた農家さんに別の土地でも農業をやりながら次の事を考えようと言うプロジェクトです。次に東北の取引先の水産会社2社と醤油会社について来るか判らない公的な義援金を待つよりもダイレクトに、らでいしゅぼーやで集めた義援金を渡した話や、らでいしゅぼーやの会員のお客さまの中で被災された方にも義援金を渡し回ったとのお話もありました。最後は質問タイムで3、4つ事業内容に関する質問で終わりました。

11月25日

午前中は、松長近隣公園仮設住宅でのお茶会でした。パソコンは、集会場にありませんでした。松長近隣公園仮設住宅の集会所でのパソコンの設置ならびにモニターも難しいと思いました。お話は、聞けました。お茶うけのりんごと柚の砂糖漬けは大熊町の郷土の味だそうです。塩漬けもにんにくが入っていて大熊町に居た頃に近い工夫をされていました。花を育てている方、畑を借りて農作業をする方もいるが1日中、家に居てお茶を飲んでいられる方もいる。とのお話でした。また、この日は大熊町の社会福祉協議会の方もおられて、これからの季節体調を崩す方も増えるのを予想して保健師さんは、来ないのですか？とお聞きしたところ大熊町の保健師だけでは、それぞれの仮設を回るには数が足りず、今津若松市の保健師との話し合いが始まった事をおっしゃっていました。午後は、セミナーでした。講義として「支援活動と地域づくりについて考える」いわき明星大学准教授、高木竜輔氏を招いてのものでした。そ



してシンポジウムは、[どんな支援をしたのか、これからどんな支援をするのか]でした。パネラーとしてNPO法人NIVO 理事長鈴木伸司氏の代理で副理事の方と会津・南会津絆づくり支援センターセンター長貝沼航氏とNPO法人ちよま倶楽部事務局長尾崎嘉洋氏とNPO法人会津地域連携センター理事長稲生孝之氏そして、コーディネーターNPO法人うつくしまNPOネットワーク事務局長鈴木和隆氏。内容として東日本大震災、原発災害に見舞われた福島県、新潟・福島豪雨、台風15号水害と前代未聞の大災害であり、阪神・淡路大震災をはるかに超えて、

- 直接的な被災地の広さ500キロを超える広域
- 被災地域の多様性、岩手県・福島県のように過疎的な地域から仙台市のような地方の中核都市部まで
- 農林漁業を含む地域産業への大きな被害
- 原発事故による風評被害
- 集落の解体の危機と地域の団体自治・住民自治の担い手の喪失の危機

被災者の避難先の流動化

震災すぐ後内陸部に避難したが、時間と共に住みなれた沿岸部であるいわき市に移動と失業して仕事も求めて首都圏へ避難する。この2点により避難自治体の対応が出来ない。例として双葉町で行政機能は、埼玉県加須市にあり福島支所が郡山にあるだけで、仮設は福島市、郡山市、白河市、いわき市、会津若松市、猪苗代町の6ヶ所と元の住民が散らばって、しまつて自治体の情報が入りにくくなっている。そして、受け入れ自治体との福祉サービスの違い、調整、自治体間の連携と時間がかかる。

サポートネットワーク

- 団体、集団への参加の減少し、その上で人間関係をどのようにつくるか
- 災害で、とまどい、不安、新しく人間関係をつくる事の難しさは、都市部より地方の方がより鮮明になる。
- 特に閉じこもりがちの高齢者世帯や独り暮らし世帯の問題として孤独死があります。

長期化する事を考えて、違う地区の避難者同士、また受け入れ先の自治体の人と避難者の繋がりを考える必要がある。

シンポジウム

今まで活動していた内容と3・11以降の活動について

地域のお年寄りの見守りや除雪の手伝いなど地域の人のための活動をしていたが、3月11日以降は、大きく変わり避難者を受け入れる自治体も大変になり地元のNPO法人に支援の要請で1からの手探り状態になり、炊き出し、避難所の運営、除染、心のケア、子どもの遊び相手、交流フェスタ、仮設での復興イベントなどするうちに、皆をまとめるリーダーの人材づくりの重要性に到る。これからの事として個々のニーズの把握、自治体や社会福祉協議会で出来ない事の支援、雪対策の支援、孤独にならない支援

風評対策に対しては、震災後95%の修学旅行のキャンセルに、避難者が温泉地に避難し

て来て、観光どころでなかった。今は、月に1, 2回関西での販売イベント、や京都・大阪・名古屋・東京でのポジティブにしてお客さんを呼ぶイベントを定期的に行うなど。

地域づくりの再生と理想の地域を考える

人が集まりやすい地域

自信・自慢・感動できる地域

喜怒哀楽がでる地域

自ら発信する地域

いろいろな人と繋がりがある地域との発言とまとめで閉会です。

11月26日と11月27日

会津若松市の公民館と図書館に行ってパソコンを無料で使えるので調査で使いに行ってみました。図書館のパソコンはカードを差し込んでパスワードを1つ入れればすぐにホームページに入れました。終わりはカードを抜くだけです。公民館のパソコンは職員の方が言う通り古いのか、マニュアルがあっても少し分かりにくい感じがしました。でも「毎日使いに来る方もおります。」と、職員の方が言うておりました。後は26日に御薬園ここは皇族の方の縁の地であり、会津地方固有種を含む薬用植物園がありました。2月には絵ろうそく祭りの会場になり大変にぎわうそうです。27日は野口英世青春館に行きました。野口英世は黄熱病の研究で世界的にも有名な方で、この地で初めて医学を学び勉学に励んだ場所なのです。初恋もしたそうで忙しくも充実した青春時代を送った所を見ました。



11月28日

最終報告づくり

11月29日

午前中は最終報告づくり

午後は公民館と図書館に行ってきました。マニュアルを置いて貰うためです。図書館の方は図書館なのでパソコンの本がすでに有るのでとの事でした。公民館の方は情報を見るだけなのでマニュアルは置けないけれども「分からなかったら職員の方が教えます。」と仰ってくださいました。

11月30日

午前中は松長近隣公園応急仮設住宅にお伺いして会津若松市の情報を届けたのと挨拶をし

ました。大熊町のボランティア団体すみれの会の方に来て来ました。代表の方は、お留守でしたが手紙を残して来ました。また同じボランティア団体の別の方には会えまして情報を渡す事と挨拶が出来ました。

午後は最終報告づくりで午後5時から最終報告でした。

これで後半の行動の説明です。私を感じ学んだことは、会津若松市に来て感じたのは、皆さんこちらが挨拶すると挨拶をして下さるし、道に迷ったり観光する場所を丁寧に教えて下さったり、会津若松市を綺麗にしようと皆さんが清掃活動に熱心に取り組んでいて、会津若松市市民の皆さんが観光地として良くしたいのが分かりました。観光客に対しても優しく丁寧に接している所を何度もみました。でもある会津若松市の方がたのお言葉が自分の中で感じました。「避難してきた人たちはお客さんだから。」「今、会津若松市は被災者がお金を使ってくれているから少し景気がいいのだよ。」と言っておりました。私の関わった大熊町のホームページから、大熊町復興構想(案)と今後の進め方についてから大熊町復興計画町民アンケートの集計についてより抜粋しました。Q・大熊町に戻るために最大何年位であれば待てますか？（2011年6月実施、8月9日集計）

半年以内	9%	と全世代分の結果が出ていました。
1年～2年	42%	実に70%以上の方が、5年以内まで
3年～5年	20%	とのお答えが多い事がわかりました。
10年以内	5%	
いつまでも待つ	14%	
無回答	10%	

役場の方の「場合によっては、10年から20年要することも想定されます。」と書かれておりました。またセミナーでも長期化する事を考えないと、といわき明星大学准教授の高木氏がおっしゃっておりました。これらの事からいつまでもお客さんでなくて、会津若松市に住んでいる仲間として皆さんと一緒になれればと思いました。それは、パソコンの事でもいいし、大きなイベントではなくても大熊町の方がたの郷土の味のりんごと柚の砂糖漬けを会津若松市の方がたに教える代わりに会津若松市の方がたが皆さん知っている雪対策の方法を教えると言う風に少しずつ仲良くなって大熊町や沿岸部の方がたが自分たちの町に帰る時、「会津若松市が好き。」となってくれたらと思いました。勿論もうすでに実践されている大熊町のボランティアの代表の方みたいに会津若松市の方と仲良くなったと良いお話もきけました。

感想としてコミュニケーションとパソコンは難しいです。気持ちを伝えているつもりでも相手の方には、全く伝わっていない事がよくあり、難しいと思いました。

※ パソコンの起動も難しかった初心者の研修生でしたが、時間をかけて報告書を Word で仕上げました。 素材広場 担当者